

---

◎町長行政報告

○議長（稲葉昭宏君） 日程第４、町長の行政報告を行います。

町長から報告の申し出がありますので、これを許します。

（町長 齋藤文彦君 登壇）

○町長（齋藤文彦君） 平成26年松崎町議会第１回定例会の開会に当たり、謹んで行政報告を申し上げます。

４年に一度の国のスポーツの祭典・ソチ冬季オリンピックが終了し、日本選手の活躍に一喜一憂したこの冬でしたが、日本の今年の冬、特に２月に入ってから気候は異常でした。16年ぶりにひと冬に大雪警報が２回発表されるなどし、記録的な大雪となり、都市機能の麻痺や山間部の孤立化、県内では御殿場市や小山町の一部が孤立するなどし、人的な被害や経済に大きな被害が発生しました。

今回の状況を踏まえ、国も早期復旧に必要となる道路管理のあり方を検討するとしております。

このような状況の中で当町としましては、東部地域総合応援協定による御殿場市、小山町への支援、富士箱根交流圏市町村ネットワーク防災部会による山梨県の構成市町村への支援に向けてそれぞれの事務局を通して確認したところですが、最終的には応援の必要がないとのことでした。

災害はいつどんな形で発生するか予測されませんので、応援協定等の重要性を感じたところでございます。

では、昨年の12月以降の町政を含めた動向についてその概要を報告いたします。

まず、ただいまの災害協定等の締結についてであります。12月中に３件の協定更改、新規締結を行いました。松崎高校とは第４次地震津波被害想定でこれまでの協定場所が浸水想定区域となったことから、校舎周辺を避難所に、校舎の一部を津波避難ビルにする内容です。静岡県司法書士会とは災害時における司法書士相談業務に関する協定、西日本電信電話株式会社とは災害時の被災者等の通信を確保する覚書を締結したところでございます。今後も関係機関との連携が速やかに取れるよう、協定等の締結を進めてまいります。

次に、２月11日に東駿河湾環状道路の三島塚原から函南町塚本までの6.8km区間が開通し、東名高速道路から伊豆半島へのアクセスが大幅に改善されることとなり、所用時間の短縮、交通渋滞の解消などにより、伊豆半島全体の観光の活性化が図られ、地域経済への波及

効果を大いに期待するものでございます。

次に、大変残念なことです。3月15・16日に開催を予定していた第2回伊豆トレイルジャーニーは先ほど触れました大雪の影響で残雪や悪路の発生により走路の安全確保ができないことから、実行委員会としては断腸の思いで中止を決定したとのことです。今後もこの時期ですと、どうしても同様のことも考えられますので、執行時期の見直しなど実行委員会の中で対応していくものと思いますが、地域の活性化には必要なイベントと捉えておりますので、温かいご支援ご協力をお願いしたいと思っております。

平成26年度の町政も多くの難局、課題が待ち受けていることと思っておりますが、町長2期目の就任に際しまして表明いたしました所信をもって進めてまいりますので、議員各位のご理解ご協力をお願い申し上げます。

本日は、町営観光施設の入館状況についてほか2件について報告をいたします。詳細は担当課長をして申し上げます。

○企画観光課長（山本 公君） それでは、企画観光課から2件の行政報告をさせていただきたいと思っております。町営観光施設の入館状況でございますが、本日配付をさせていただきました2月末町営観光施設の状況（速報）の資料を先にご説明させていただきたいと思っております。右側に累計、25年度、24年度というところがございますので、そちらでご説明をさせていただきたいと思っております。

まず、伊豆まつぎき荘の状況でございます。1156人前年と比べて減少いたしまして、1万6533人、93.5パーセントでございます。長八美術館でございますが、前年度より1279名減の2万9896人、95.9パーセントとなっております。重要文化財岩科学校でございますが、2742名減の1万7689人、86.6パーセントでございます。明治商家中瀬邸でございますが、1419人減の1万6514人、92.1パーセントという状況でございます。民芸館、花の三聖苑につきましては、売上の欄でご説明をさせていただきたいと思っております。民芸館につきましては113万9566円減の1237万7762円でございます。なお、利用者が大幅に減となっておりますけれども、施設の2階をギャラリーあるいは体験コーナーということで活用させていただいております。喫茶を行っていない状況となっていることが原因でございます。花の三聖苑でございます。前年度より168万9079円の減の2155万6107円という結果でございます。かじかの湯につきましては、560人増の2万7086人となっております。

2月につきましては、先ほど町長も申し上げましたが、2回にわたる大雪等の影響もございました。97パーセントという結果になりました。2月の単月、累計におきましてもかじか

の湯を除く施設ですべて減という厳しい状況でございます。

引き続きまして、資料ナンバー 1 をお願いしたいと思います。各施設の入込状況（速報）につきましては、先ほど 2 月の報告でさせていただきましたのが最新となりますので、こちらにつきましては 1 月の収支の状況でご報告をさせていただきたいと思っております。

まず、1 ページ目の伊豆まつぎ荘の収支の状況でございますが、右の累計の欄をご覧ください。ただきたいわけでございますが、収益で 2 億 870 万 3000 円、前年度より 931 万円の減、95.7 パーセントでございます。公債費・減価償却費を按分して加えました費用が、2 億 3758 万 4000 円でございます。前年度より 1 万 8000 円の減でございます。按分利益につきましては、前年度より 929 万 2000 円悪化いたしまして、マイナスの 2888 万 1000 円の計上となっております。

続きまして、2 ページをお願いいたします。伊豆の長八美術館でございますが、収支差額 1006 万円でございまして、前年度よりマイナスが 29 万 5000 円増加いたしております。

重要文化財岩科学学校でございます。収支差額マイナスの 281 万 6000 円でございますが、前年度より 103 万 5000 円改善となっております。

3 ページをお願いしたいと思います。明治商家中瀬邸でございます。収支差額 288 万 4000 円で前年度より 31 万 1000 円改善という結果となりました。

民芸館でございますが、マイナスの 139 万 5000 円で前年度より 69 万 7000 円の改善となっております。

4 ページをお願いいたします。最後に、道の駅花の三聖苑でございますが、収支差額マイナスの 609 万 5000 円となり前年度よりマイナスが 60 万 6000 円増加いたしております。

今回の状況を踏まえまして、今回の補正予算等で提案させていただいておりますので、よろしくをお願いしたいと思います。

1 月までの累計を見ますと、重要文化財岩科学学校、明治商家中瀬邸、民芸館で収支の改善が図られてはおりますが、そのほかの施設におきましてはマイナスでございます。町営観光施設はなかなか厳しい状況が続いておりますが、今後も観光団体と連携した宣伝活動あるいは伊豆半島の市町と連携した「伊豆は一つ」としての観光活動、宣伝活動を通じまして、施設への誘客を図ってまいりたいと思っておりますので、またご協力の方をよろしくお願いを申し上げます。

引き続きまして、伊豆トレイルジャーニー 2014 の開催中止でございます。資料については添付してございませんので、口頭でご説明申し上げたいと思っております。

先ほど町長の方の行政報告の中でご説明を若干させていただいておりますが、新聞報道等

でも既にご承知のことかと思えます。伊豆トレイルジャーニー実行委員会、会長は松崎町観光協会会長であるわけですが、今月16日に開催を予定しておりました本大会が、先ほど申しましたように2月に二度降った大雪ですね。8日と14、15日に降りました大雪の関係で、選手の安全確保ができないこと、あるいは除雪あるいは道路整備に多大の費用、時間、人的対応もかかること、あるいは伊豆市において積雪被害もあるようなことから、総合的に判断いたしまして、2月26日に開催を中止することといたしております。

本大会につきましては、参加者が1674名の申込みがありまして、うち宿泊が1220名、町内宿泊者は960名ということでございますけれども、それらの方の宿泊申込みがあったわけですが、町長が先ほど申しましたように、大会が中止というようなことになりまして、なかなか厳しい結果というふうに思いますが、次年度以降もまた検討をされているということでございますので、支援を続けてまいりたいと考えております。

以上、企画観光課から2件の行政報告をさせていただきました。

○生活環境課長（斉藤昌幸君） それでは、行政報告の2番目の公営企業会計平成26年1月末経営状況についての報告をさせていただきます。資料ナンバー2番の方をお願いいたします。

はじめに、水道事業の方でございます。収益の関係でございますが、営業、営業外の収益が1億2180万円ということで、前年比197万1000円の減、マイナス1.6パーセントということでございます。こちらにつきましては、備考欄にございますとおり、1月末現在の有収水量につきましては、79万2698㎥でございまして、一般、営業ともほとんどの分類でも減少しておりまして、前年比1万5551㎥、1.9パーセントの減ということで、この結果、事業収益では使用水量が減少したことにより、197万1000円の減となったわけでございます。

一方、費用の方でございますけれども、営業、営業外費用を入れますと4338万2000円と前年比186万7000円の費用増でございます。さらに予定費用の減価償却費、それから支払利息等を入れますと、費用合計でございますけれども、1億1274万5000円、前年比50万5000円、プラス0.4パーセントの費用増となっております。こちらにつきましては、量水器の取替業務委託費の支払いの計上、さらには動力費の増加などにより、前年比50万5000円の増となったわけでございます。この結果、差引純利益につきましては、本年度905万5000円、前年比215万円の減、マイナスの19.2パーセントという結果となったわけでございます。

続きまして、温泉事業の関係でございます。収益の関係でございますけれども、営業、営業外5179万円でございます。前年比67万8000円、1.3パーセントの減ということでござい

す。こちらにつきましては、営業用の開栓口数が2口減、それからさらに自家用の休止が4件増ということで、前年比67万8000円の減となっております。

一方、費用の方につきましては、営業、営業外費用が1803万7000円、前年比183万7000円の減となっております。これに減価償却費等を入れますと今年度4802万7000円、前年比193万9000円、3.9パーセントの減となっております。こちらにつきましては、薬品の購入がなかったことや量水器取替業務委託費が発生しなかったことです。ただ、これは水道事業の方では量水器、メーター器の交換の業務を本年1月末で計上してありましたけれども、温泉事業につきましても当然メーター器の交換はしてあるわけですが、支払いの時期が2月にずれ込んだ結果、差引費用減という形になったわけでございます。ちなみにこの量水器取替業務委託料ですが、約100万円でございます。この費用によりまして、差引の純利益が本年度は376万3000円、前年比126万1000円の増となっておりますけれども、取替機器の2月計上分を勘案しますと、なんとか26万1000円の純利益増という結果になっているわけでございます。計算上では本年の1月末現在では126万1000円、プラス50.4パーセントの利益増という結果ではございますけれども、2月においてメーター器の交換業務委託費を計上いたしますと、やはり利益につきましてはほとんど変わらず26万1000円という利益の計算になるかと思えます。

以上で報告の方を終わります。

○議長（稲葉昭宏君） 以上で町長の行政報告を終わります。